

G-4 荒川豊蔵資料館

陶芸家であり、志野・瀬戸黒で国の重要無形文化財保持者に認定された故・荒川豊蔵により、自身の作品やコレクションの収蔵・展示目的で1984年に開館、2013年に市に寄贈された後、名称を「荒川豊蔵資料館」として再オープンしました。2017年からは、敷地内にある旧荒川豊蔵邸の敷地を居宅や陶房と共に公開しています。



E-4 小淵ダムと小淵ため池公園

小淵ダムは1952年5月に日本で最初に完成したロックフィルダムです。高さ18.37m、総貯水量551,925m³で、防災兼農業用溜池として利用されています。ダム周辺は公園として整備されておりハイキングコースとして最適です。



E-4 元久々利の門川と洗い場

千村家の時代から元久々利集落には、家の軒先を流れる人工水路（門川）と淀みや洗い場が整備されていました。その水を食器類、食品類、衣類等を洗う生活用水や共同風呂に使用するなど、毎日の生活に欠かせない施設でした。また、堰止板とはめ込み溝で消火用水としても機能していたようです。時代の流れと共になくなっていきましたが、現在でもその名残りを見れるところがあるようです。



B-4 東明小学校と珪化木

1967年に久々利・平牧の小学校を分割統合し、東明小学校（設立時は東小学校）が開校しました。その後児童数増加とともに広眺ヶ丘地区の校区の変更や増築も進みましたが、設立後40年程で児童数が減少傾向となりました。また、2016年に小学校南西1.2km程の二野工業団地の工事現場で発見された、約1800万年前の楡の珪化木が長さ15mのうち地上に出ている約4m部分が校舎北庭に展示されています。



B-5 平牧地区センター

1987年に市制5周年を経て大型公民館として新築開館しました。大型住宅団地と近接しアクセスがしやすく年間2万人程の利用者があります。サークルも多く、センターまつり、サロン、子ども食堂など地域活動の拠点となっています。



F-4 東海自然歩道とヒトツバタゴ自生地

「みたけの森をめぐるみち」として名鉄御嵩駅・小萱ポケットパーク・小淵ダム・丸山・元久々利・柿下・二野・大森に至るまでのコースがあります。ヒトツバタゴ自生地もあり、そのほか桜・フウ・ハナノキ・シデコブシなど四季折々の自然と史跡が楽しめます。



D-4 可児郷土歴史館・久々利地区センター・陶芸苑

可児市の原点ともいえる市内初の可児郷土歴史館、久々利公民館（現在は「久々利地区センター」）は、建設費の一部や久々利銅鑄買戻し費に久々利財産区の繰出金を活用することで1973年に完成しました。



可児郷土歴史館は銅鑄を中心に化石、考古、窯業、陶芸、民俗の各分野での歴史資産を展示しています。久々利地区センターは地域活動の拠点となっており、1977年頃から公民館祭りや町民運動会などが始まり、1990年からは久々利ふれあい祭りとして継続しています。泳宮、久々利城跡などの中継地です。陶芸苑は、優れた美濃焼の伝統・文化を通して、その高い技術と精神性を体験するというコンセプトのもとに、1986年開設されました。専任指導員により、陶芸経験がない方でも陶芸体験や陶芸技術の習得をサポートしてします。

D-4 久々利保育園

1954年に可児町最初の公立保育園として開園し、当時は大萱から徒歩通園もありました。四季折々の豊かな自然と元久々利の町並や久々利城址などの歴史に触れることができます。園児は、畑で旬の野菜を収穫したり、草花で遊んだりして生き生きと過ごしています。



B-3 ふれあいパーク緑の丘(別途愛称あり)

全体面積21.9ヘクタールに及ぶ緑豊かで静かな広い公園です。芝生広場・エントランス広場・イベント広場・遊び広場が区画されており、その中には複合遊具1基、外周園路1kmの園路も準備されていて、市民の散歩や軽スポーツなどが出来るほか、官民の大型イベントなども開催されます。近くには「ぎふワールドローズガーデン」もあります。



B-5 二野工業団地

可児御嵩インターから3km程に位置し、2009年の第1期造成、2015年の第2期造成による10区画の緑で囲まれた工業団地で、地域の雇用も担います。

